

Q: OSSの扱いに気を付けなくてはいけないのはなぜですか？

- A:
- ライセンス面
 - ソフトウェアは著作権、ライセンスによって守られている
 - ライセンスに従わないといけない
 - 著作者に対するリスペクトが必要
 - ライセンス違反による裁判事例がある
 - OSSは特に契約等の手順を踏まなくても手に入れて、使うことができちゃう
 - 普通だったら、契約等の手順でライセンス条件等を確認するが、OSSはそれをしないで使ってしまうことがある
 - 草の根的に導入されて、管理できなくなる
 - OSSは依存関係で勝手に入ってくるものがある
 - 自分で使っていることを認識できていないものがある
 - FreewareとOSSの違い(フリーソフト)を理解し利用条件に従って扱わなくてはならない
 - 判断に迷う場合が多い→ここでOSPOが必要になってくる
 - 安心して利用
 - セキュリティ(脆弱性)
 - 導入した後に問題が発見されて、対応が必要になる。その時に何を使っているかを把握していないと対応が遅れる・できなくなる
 - 広く使われている/ソースが公開されているため攻撃側がやりやすい
 - 一方で開発者・利用者が多いので、対策が早い
 - OSSを安心して使う
 - コミュニティの状態によって左右される
 - コミュニティに貢献・参加することで、安心状態を保つ
 - 注)初期段階の質問との想定

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか

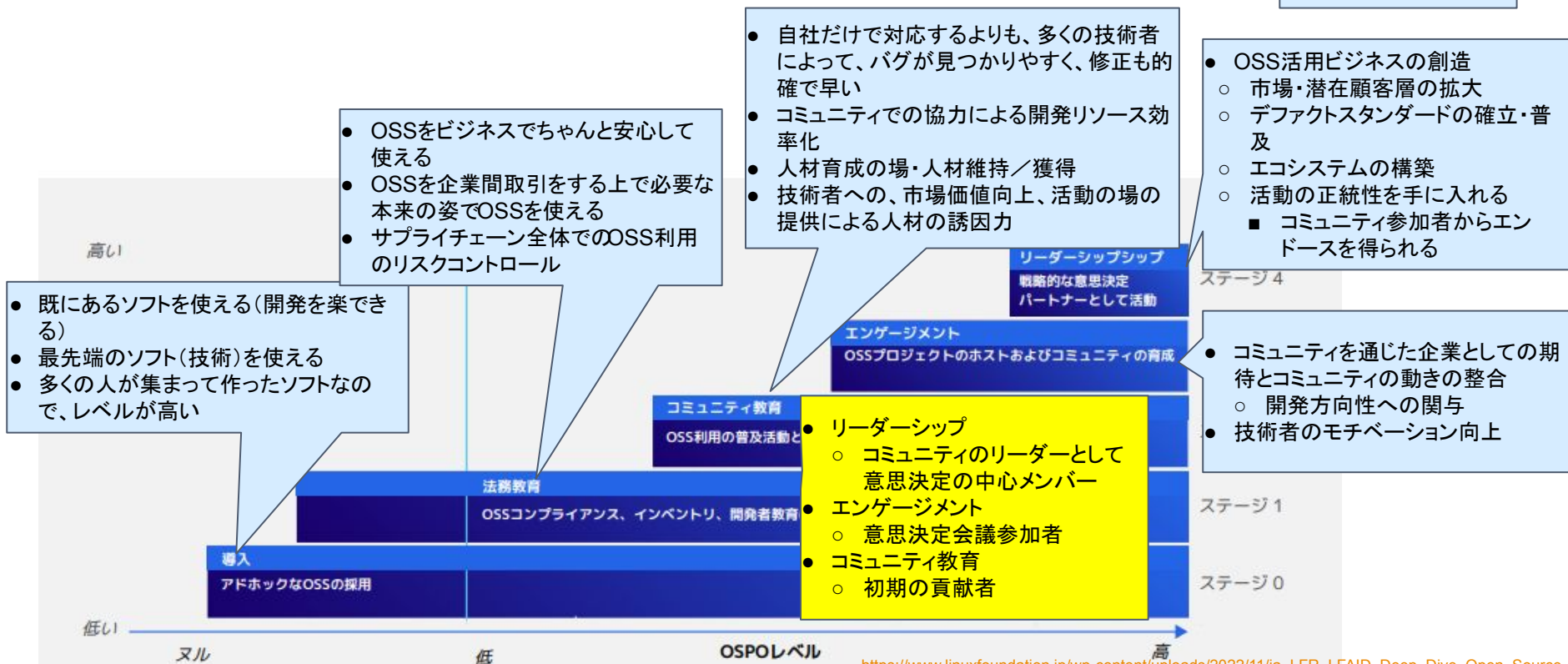
A:

- オープンソースソフトウェアを利用するメリット
 - 既にあるソフトを使える(開発を楽しめる)
 - 最先端のソフト(技術)を使える
 - 多くの人が集まって作ったソフトなので、レベルが高い
 - 多くの人が使うので、バグが見つかりやすく、修正も的確で早い
- コミュニティ活動のメリット
 - コミュニティでの協力による開発リソース効率化
 - 人材獲得のチャンスがある(企業側)
 - 技術者としては自分の価値向上、活動の場の獲得ができる
 - 人材育成
- ビジネス戦略上のメリット
 - コミュニティを通じた市場・潜在顧客層の拡大、開発方向性への関与
 - デファクトスタンダードの確立・普及

OSPOのステージとのマッピングを次回考える(2023/5/26)

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか

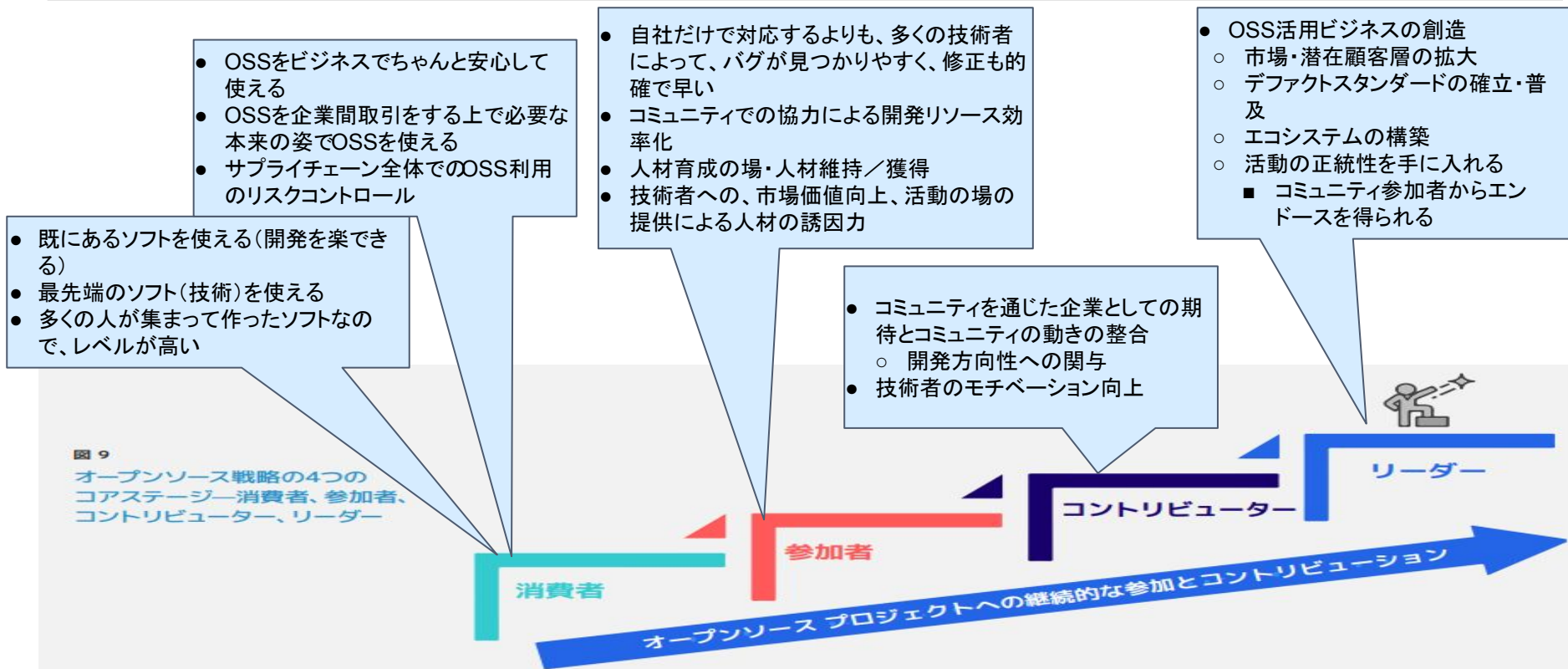
Fix



https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges" foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



- (上位概念として纏めてみる)
- OSPOが取り組むこと
 - 課題
 - OSSが80%以上使われている現状に対応する
 - 取り組み
 - OSS、OSSコミュニティと企業としてどうかかわると良いかを見つけ、推進
- 前にもチラッと書きましたが、OSPO=社内とOSSの文化のギャップを埋めるためのものと感じています
 - 追いつくだけのイメージなので、不十分な気がする
- 組織とOSSコミュニティをブリッジするのがOSPO
- 企業内の認識、マインドセットをStage upするように推進するのがOSPOの役割
- エンジニアに限らず、OSS的な働き方(外部で当たり前になりつつあること)を自組織に浸透させる
- 規模が大きくなった開発をうまく行うために、OSSコミュニティで成功しているやり方を社内に導入しようとする取り組み
- 自社をOSSが生み出したエコシステムに組み込む(一員になろうとする)取り組み
- 自社ビジネスをOSSエコシステムを活用して発展させる
 - 企業の論理とOSSの論理の間を取り持って、双方の発展を目指す
 - OSSコミュニティで活動する企業エンジニアには、OSS活動に専念してもらうべき
 - その人とは別に企業の論理側も考えて戦略を実践するのがOSPOのメンバー
 - OSPOメンバーとOSS活動メンバーが混同されると活動メンバーが苦しくなる
- OSPOの人の社内での位置づけ
 - 事業部の人でもない、OSS活動エンジニアでもない。両方考えている。
 - 複数の立場を使い分けている。(これがOSPOをやるときの難しさを生んでいる)
- OSS活動が企業からもOSSコミュニティからも価値、メリットがある状態を目指す／作り上げる
- Open Source Program Officeという名称の意味から議論してみてもどうか
- Programの意味
 - プログラムオフィサー (program officer, PO) とは、研究機関やシンクタンク、財団などにおいて、研究や助成のプログラムの企画立案、運営管理などを行う人のこと。
 - 継続的に行うことという見方もある

- OSPOのメンバーに求めるスキルは
 - 幅が広い？
 - ソフトウェアの開発技術(ある程度のレベル)
 - ライセンスに関する知識
 - 法務、知財の基礎知識
 - コミュニティでの共通理解(意図、背景)
 - コミュニケーション能力
 - 英語力
 - リスペクトの精神
 - やる気、逆風に耐えられるメンタル
 - 説明能力
 - 教育者としてのスキル
 - コミュニティ活動の経験と適正
 - OSSの開発手法・エコシステム・コミュニティに対する正しい理解
 - OSS、コミュニティの文化の理解とリスペクト
 - 参加者の価値観
- OSPOが果たすべき責任は何？
 - ライセンス管理
 - 事業戦略へのOSS活用提案・アドバイス
 - OSSコミュニティでの活動の活性化
 - OSSに関する啓蒙
 - OSS使用時のリスクの啓蒙
 - OSSの利用価値、コミュニティ効果の啓蒙
 - CLAの管理:
- OSPOに与えられるべき社内の権限
 - Cレベルと話せるパス
-

- OSPOの最適なサイズは？
 - 総エンジニアの何%ぐらい？
 - OSSの成熟ステージで変わる(初期は大きく、次第に小さくなる)
- OSPOに必要な社外との関わりは？
 - OSSイベントに参加、貢献、議論
 - 社外の情報を吸収して社内に持ち帰る
 - 会社(技術者)が社外に意見発信して、共通理解の形成をする支援
 - 会社として自社の姿勢を示すことを推進(協力、仲間づくり、人材獲得)
- OSSプロジェクトの運営
 - CLAの設定戦略、管理
- M&Aの視点
 - 企業の買収だけでなく、プロジェクトの買収(?)の支援
- OSPOのパフォーマンス評価方法
 - 活動の正当化の方法
 - 社内の理解者の割合
 - 事業への貢献度の示し方
 - 認知度
- OSPOのスタートは何か
 - ライセンス遵守、教育
-
-
- 参考: <https://ospomindmap.todogroup.org/jp>
-

- 組織全体がOSSを適切に扱えるようになるために(いろいろな方法で)働きかけるのがOSPO
- 組織全体か、OSSを扱う部門だけが対象か？
 - DXを例にとると、ITを組織全体が活用して変化すること==これの OSS版
 - OSSに適合して組織全体が変容する必要がある
 - Open Source Companyになる、ということ
 - RedHatみたいになること
 - 技術開発、情報発信の仕方が Open Source Communityの手法を取り入れている
 - 組織とOSSコミュニティのブリッジがうまくできている会社
 - ブリッジとは、企業の常識とコミュニティの常識の両方を理解してコミュニケーションができる
 - 組織の全体、各部門、各人がブリッジを行える、行っている状態を作る
- ブリッジの例
 - 企画部と開発部がOSSコミュニティの理解をベースにOSSを利用した新しいビジネスの立ち上げがスムーズにできる状態
 - OSS貢献が事業メリットになっていることを組織の全員が理解し、実践している状態
 - OSS貢献が事業活動につながっていることの説明がついている状態
 - OSSが世の中に占める割合が大きくなり、世の中の変化に事業活動を合わせる必要があり、その手段が OSS活動に関わってゆくことになる
 - AIへの対応、新たな規制(セキュリティ、倫理等)への対応
 - 事業メリットの例
 - SoCベンダーであれば、OSS活動により、SoCのLinux Distributionがコミュニティで長期的に安定的に維持され、SoC採用の増加や差別化につながる
 - Openな活動になっていることが企業のアピールとなり、製品の信頼度や採用に有利に働く
 - OSSを使用してもらうことによって、ユーザーに潜在的なマーケットを創出する
 - OSSの利用者を増やすことによって、そのサポートビジネスを成立させる
 - Androidの例

- 「OSPOとは、組織のOSS Journeyの水先案内人である」と言ってみてはどうか？
 - 組織のOSS Journeyは、それぞれの組織で異なる
 - 先に行って引っ張るというより、支援して後押しだと思うので、水先案内人という言葉がしっくりこない
- 組織としての方向、戦略があって、そのためにOSS、OSSコミュニティとどう関わってゆくと良いかを示して、それを進めるのがOSPOの役割
 - そのためのアクションは、それぞれの組織の状態(ステージ)によって異なる
 - 例えば、
 - 組織内の既存の部門に働きかける
 - Corporate PortfolioとProject Managementの間を取り持つのがOSPO
 - ステージ0では、コンプライアンス遵守の必要性を示し、ライセンスの理解を広げる活動を行う
 - ステージ1では、コミュニティへのバグフィックスの提供の効果を伝える
 - ステージ2では、OSS貢献による開発工数(コスト)の分担メリットを示す。OSS活動しやすい社内の仕組み(制度)を作る。
 - ステージ3では、
 - ステージ4では、
 - OSSに対する組織の形が企業によって異なるので、
- OSS Journeyとはなにかも議論してみたいと思う
- OSS Initiativeをどう説明すると良いか
- Shared Costをうまく伝える
- Programをどう伝える ==> 次回、もう少し掘り下げてみる！
 - PMI=Project Management Institute の用語としての Programが使われている
 - PMO=Program Management Office: 複数の Projectをうまくマネジメントするための組織
 - PMPのサイト: <https://ssaits.jp/promapedia/concepts/project-program-portfolio.html>
 - Program = "an officially organized system of services, activities, or opportunities that help people achieve something" (<https://dictionary.cambridge.org/ja/dictionary/english/program> より)
 - <https://ospoglossary.todogroup.org/ospo-definition/>
-
- 「OSSが引き起こしたビジネス環境の変化を理解し、その変化し続ける環境に会社が適合するよう働きかけることがOSPOの役割」と言ってみては
 - 「適合」にもステージがある: ①直接関わる変化に反応、②変化の背景を理解し、次に起こる変化を予測し準備、③望ましい状態を考え、その状態を実現するための変化を生み出す、など
- 2/29の提起事項: OSPOの立ち上げ方／作戦を検討する

- 「OSSが引き起こしたビジネス環境の変化を理解し、その変化し続ける環境に会社が適合するよう働きかけることがOSPOの役割」と言ってみては
 - 「適合」にもステージがある: →「適合し、共存する」
 - ①直接関わる変化に反応、
 - ②変化の背景を理解し、次に起こる変化を予測し準備、
 - ③望ましい状態を考え、その状態を実現するための変化を生み出す、
 - など
 - あるステージ以上になるとOSPOがコミュニティと組織のブリッジの働きをするようになる
 - 人事をOSSコミュニティに関わるように進めることで採用等の活動がうまくいくようにブリッジできるようになる
 - 企業紹介チラシをコミュニティで配布する、スポンサーになるなど
- OSSの世界と会社の距離感は会社がOSSをどう理解しているかによって変わる
 - 成熟度のステージが上がると距離が縮まる。
 - 最初は離れているが、徐々にOSSの世界に会社が入り込む。
 - 入り込みかた、規模がOSS戦略となる
- 2/29の提起事項: OSPOの立ち上げ方／作戦を検討する: OSPO Strategy

- Stage 0 → 1の作戦
 - 訴訟の事例を伝える
 - 痛い目に合って必要性を痛感する
- OSSがらみの課題の洗い出しをして、全体感を見てから取り組みの優先度を決めて取り組んでゆく
 - 目の前の課題を追いかけると五里霧中の状態で終わりが見えない
 - まず全体感をつかんでおくとやりやすい
- OSPOを作ろうと思ったときにOSSの戦略が必要
 - でも、簡単に戦略が作れるわけではない
 - OSSの戦略の事例に対して、それを実現するためにOSPOが何をするか
- Strategy議論の2次の会社(TV、カメラ等の製品の開発販売会社)のOSS戦略を実現するためにOSPOが行うことを検討してみる
 - この会社のOSS戦略とは
 - 不具合修正をコントリビューションする
 - コンプライアンス遵守
 - バージョンアップについてゆく
 -

- 参加者：7名
- Portfolio、Program、Project
- Project—Product
- ProjectはOutputを出すところ、ProgramはOutcomeを出すところ
- OSPOは会社の中でどのスコープで活動するかはそれぞれの会社で異なる
 - Projectレベル、Programレベル、Po
- Programという言葉にこだわらない
いいのかも＝Open Source Office
- やはり、Programが入っている方が
管理＆推進面が伝わるので良い
-

OSPO: Open Source Program Office

■ Objective :

“Open Source Program Office” の “Program Office” の意味をPMIの定義から紐解くことで、OSPOの役割を理解するヒントを得る

■ Question :

“Open Source Program Office” の “Program” の意味は何？

■ Answer :

- “Program Office” はプログラム活動を行うメンバが集まる空間であり部屋ではあるが、マネジメント的には、“Program Management Office (PgMO)” としての役割を担う組織と捉えられる
- “Program Management Office (PgMO)” は、“プロジェクト” が集合した「プログラム」に関連する、意思決定や監督/管理を行うための枠組みや手続きを標準化し、リソース・方法論・ツール・テクニックの共有を促進する管理組織
- “OSPO” とは、“オープンソースに関する 意思決定や監督/管理を行うための枠組みや手続きを標準化し、リソース・方法論・ツール・テクニックの共有を促進する管理組織” と理解できる

- 最初、コントリビューションは草の根でここで上司を説得していた
- それを会社として纏まって行おうとしてOSPOが生まれた
- OSPOは草の根活動だけでは難しく、トップからのアプローチも必要
 - トップアプローチをどうやって生み出すか。ベストプラクティスが欲しい。。。
 - 「COSO (Chief Open Source Officer) への道」という書き物があるといい
- ビジネス観点でのOSSを会社として認識していただくにはCレベルに動いてもらうのがやりやすい
- 営業からの声
 - ソフトの事業の場合、売るためにOSS、コミュニティを理解していると有利、という認識が広がってきている
- SBOM、輸出規制などがソフト以外の事業でもOSS、コミュニティの理解＋コミュニティに参加して標準を作っていることが役立つということをわかりやすく・正しく伝えるといいのでは
 - お客さんもそういったところを見ているところもある

- ・ 組織図上のどこにあるかは会社によって異なる
 - ・ 役割も様々
 - ・ R&Dの中、CTO室、セキュリティ室、リスクコンプライアンス、品証、法務知財
 - ・ 会社のいるステージが異なると、上記のどこに置くかが変わる
 - ・ 上記の一つの場所の役割には収まらないことが、どこに置けばいいか議論になる理由では
 - ・ 会社がOSPOのどの役割に重点を置いているかによっても変わる
- ・ Open Sourceという異なる文化に対して会社が協調してゆくための橋渡しをして、スムーズに利活用するフレームワークがOSPOである
- ・ Open Sourceという異なる文化を持つOSSコミュニティと団体、組織との協調を実現し、その活動がコミュニティの動きの中に自然に組込まれることを目指す組織がOSPOである
- ・ OSSコミュニティを利活用するために、その文化を理解し社内で適切に行動できるようになるための準備室(これがステージ0, 1辺りでの定義)
 - ・ ここから発展してゆく
- ・ OSPOのあり方も様々
 - ・ バーチャル — リアル
 - ・ 複数個所にある — 一か所集中
 - ・ 成り立ちとして、社内ではばらばらに複数のOSPOが発生して、成長にしたがって、一つにまとまって行く流れもあるだろう
 - ・ OSPOは一か所にまとまると機能しなくなる
 - ・ 「ここに任せておけばよい」ということになって、うまくいかない
 - ・ OSS文化を学ぶことをやめてしまうことを危惧している
- ・ 啓発して浸透させる役割を持つ
- ・ ゆくゆくは、社外のOSSコミュニティに貢献できるように、まずは社内でのOSS情報共有をする、社内のOSSコミュニティを築いて交流を活発にする、
- ・ ライフサイクルがある: 大きくなって行って、浸透したら小さくなる。
 - ・ 文化を浸透させる → ビジネス活用
- ・ 「コミュニティ貢献＝会社の成功」を実現するのがOSPOの一つの姿
- ・ 業界の文化とトレンドの変化をキャッチして、社内の文化のアップデートを行うのがOSPOの役割？
- ・ コミュニティの中のトレンドを把握し、事業に活かすのがOSPOの役割(文化もその一つ)【経営企画的な活動？】

Q: OSPOってなんですか

A:

- オープンソースソフトウェアを利用するメリット
 - 既にあるソフトを使える(開発を楽しめる)
 - 最先端のソフト(技術)を使える
 - 多くの人が集まって作ったソフトなので、レベルが高い
 - 多くの人を使うので、バグが見つかりやすく、修正も的確で早い
- コミュニティ活動のメリット
 - コミュニティでの協力による開発リソース効率化
 - 人材獲得のチャンスがある(企業側)
 - 技術者としては自分の価値向上、活動の場の獲得ができる
 - 人材育成
- ビジネス戦略上のメリット
 - コミュニティを通じた市場・潜在顧客層の拡大、開発方向性への関与
 - デファクトスタンダードの確立・普及

OSPOのステージとのマッピングを次回考える(2023/5/26)

- 組織図上のどこにあるかは会社によって異なる
 - 役割も様々
 - R&Dの中、CTO室、セキュリティ室、リスクコンプライアンス、品証、法務知財
 - 会社のいるステージが異なると、上記のどこに置かが変わる
 - 上記の一つの場所の役割には収まらないことが、どこに置けばいいか議論になる理由では
 - 会社がOSPOのどの役割に重点を置いているかによっても変わる
- OSPOのあり方も様々
 - バーチャル — リアル
 - 複数個所にある — 一か所集中
 - 成り立ちとして、社内ではばらばらに複数のOSPOが発生して、成長にしたがって、一つにまとまって行く流れもあるだろう
 - OSPOは一か所にまとまると機能しなくなる
 - 「ここに任せておけばよい」ということになって、うまくいかない
 - OSS文化を学ぶことをやめてしまうことを危惧している
- OSPOの始まり方について考察してみる
 - 最初ころはOSPOという言葉はなく、OSSは重要とか、ライセンスは守りましょうとか、伝道活動をしていた
 - GPL等のライセンスの理解を深めるところから始めていた
 - OSPOそのもののライフサイクル:
 - OSS EU での Ibrahim のセッション: <https://sched.co/1OZlh> (1:05のあたり)
- 参考: 深層考察:『オープンソース プログラム オフィス』 - The Linux Foundation <https://www.linuxfoundation.jp/publications/2022/11/a-deep-dive-into-open-source-program-offices/>
 - Ibrahim Haddad, “A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges “ foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022
-

	事業活動への利用	コンプライアンス	貢献
Stage 4	コミュニティを活性化させることが、事業の安定性に必要と理解	より良いライセンスのあり方を提案、推進	新機能、新モジュールの開発を提案、推進
Stage 3	コミュニティと良好なコミュニケーションが製品の向上につながると理解	ライセンスの扱い、ツールについてコミュニティと意見交換	コミュニティでのアップデート活動、不具合対応に参加
Stage 2	実質的に品質が高いことに気づく。 不具合があっても修正がされることに気づく	コミュニティの意見、発言を尊重	コミュニティでのアップデート情報、不具合情報を活用。発見した不具合の報告、利用実績の報告
Stage 1	ライセンスに従い、最低限の利用報告、情報開示	法的に最低限の対応	ライセンスに従い最低限のソース開示
Stage 0	無償だから使う	よくわからない。見つからなければよい。	自分のコードを渡すのは損

リターンの増加
コストの増加

コストとリターンのバランスポイントは企業によって異なる

Q: OSPOに必要なものとは？ OSPOを立ち上げるには？

A:

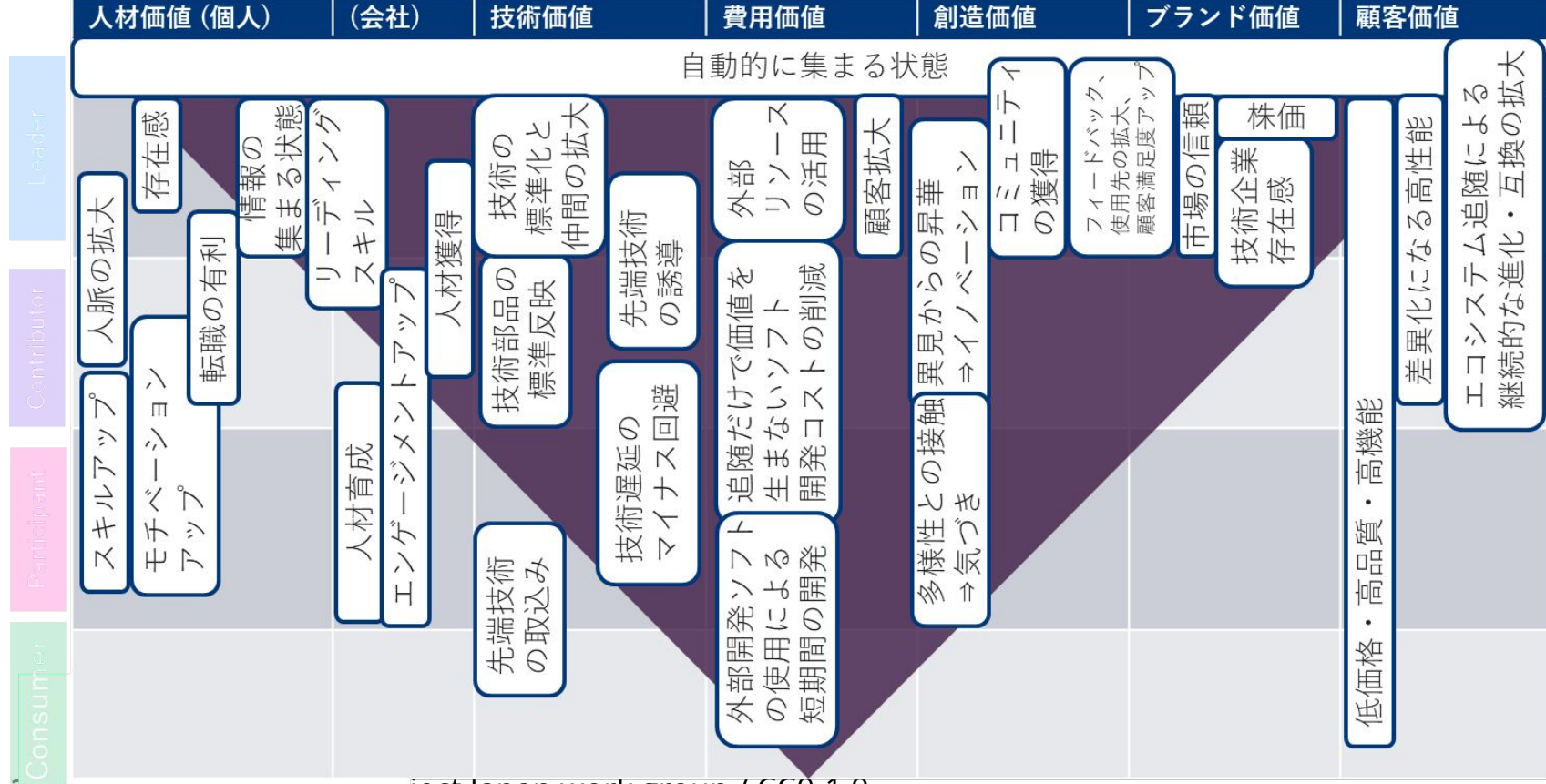
- リソース(人、お金)
 - OSPOで何をするかによって規模感が違う
 - 最低限: ライセンスコンプライアンスを社内に徹底する
 - さらに: 教育、貢献、戦略に広がるにつれて規模が大きくなる
 - 組織の継続性を考えると必要な最低限の人数は複数名
- マインドセット
 -
- トップの意思
 - トップの考えはお金がつ付随するので、重要
 - ライセンスコンプライアンスまでは必須と覚えてもらえるが、それ以上に進むにはどうしたらいいか？

OSSを使い始めるステップ

既にあるソフトを使える(開発を楽しめる)
(社内の開発工数を減らせる)

最先端のソフト(技術)を使える
多くの人が集まって作ったソフトなので、レベルが高い

Consumer ~ Leader の Open Source 価値マップ



Consumer ~ Leader の Open Source 価値マップ

	人材価値 (個人)	(会社)	技術価値	費用価値	創造価値	ブランド価値	顧客価値
Leader	自動的に集まる状態						
Contributor							
Participant							
Consumer							

Q: コミュニティのリーダーシップを取るのが難しいのはなぜか？

A:

-

Q: OSSの全社統一管理はなぜ必要なのですか？（なぜ今更、既に OSSは多く使われているのに）

A:

- 重要性
 - OSSのサプライチェーン管理を要求する米国大統領令：調達条件になってきたから
 - セキュリティ観点でしっかり管理することが求められている
 - OSSが社会インフラシステムを支えるものになってきた
 - 含まれているOSSに問題があると大きな影響を起こす
 - ISO化、業界の動き (Teleco WGなど)
- 全社統一管理の必要性
 - 一部の部署の対応ミスが、全社に及ぶ (他事業部のミスによる評判が自事業部の評価になる)
 - 社内サプライチェーンでの全体のレベル向上
 - ソフトウェアエンジニア以外が取り扱うことが増えてきている
 - 外部委託のマネージメント、ハードウェアマネージャがソフトを含む製品全体を管理している、外部委託先のOSSコンプライアンス理解度がまちまち、など
- Qの背景:
 - 現場でやるべきと思ってやってきた自負があるのだが、今更、会社全体で取り組もうとしているのはなぜ？
 - 問題がないのにルールを作る動き方になったことでネガティブな反応が生じている

Q: OSPOをどう進めればいいですか

A:

- 他社事例を見ながら、自社で気が付いていない課題を見つけるところから始める
- どうしてOSPOを作ったのか伝えるといい
- 初めてOSPOを作ろうと考えている方向けに回答を用意したい
 - (例)社内でOSPOを作ろうとしたときに、他社事例があると社内啓蒙がしやすい
- OSPOの形は、それぞれの会社で異なってよい
 - OSPOを作りたい理由をはっきりさせるところから始めると良い
- 例えば
 - ソフトウェアハウス型企业A:
 - 主体は各組織。それをサポートするのがOSPO
 - 各部署にOSPOのメンバーがいて、仮想的に集まった組織としてOSPOがある
- (ソフトウェアハウス型企业、非ソフトウェアハウス型企业、の場合で)
- 参考資料
 - <https://www.linuxfoundation.jp/publications/2022/11/a-deep-dive-into-open-source-program-offices/>
 - https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf
 -

Q: (TO:OSPO組織を既に持っている企業) どうしてOSPOを作ったのですか？

A:

- 他社事例を見ながら、自社で気が付いていない課題を見つけるところから始める
- どうしてOSPOを作ったのか伝えるといい
- 初めてOSPOを作ろうと考えている方向けに回答を用意したい
 - (例)社内でOSPOを作ろうとしたときに、他社事例があると社内啓蒙がしやすい
- OSPOの形は、それぞれの会社で異なってよい
 - OSPOを作りたい理由をはっきりさせるところから始めると良い
- 例えば
 - ソフトウェアハウス型企業A:
 - 主体は各組織。それをサポートするのがOSPO
 - 各部署にOSPOのメンバーがいて、仮想的に集まった組織としてOSPOがある
- (ソフトウェアハウス型企業、非ソフトウェアハウス型企業、の場合で)
- 参考資料
 - <https://www.linuxfoundation.jp/publications/2022/11/a-deep-dive-into-open-source-program-offices/>
 - https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf
 -

Q: OSPOを作りたいのですが、何から手を付ければいいですか？

A:

- 他社事例を見ながら、自社で気が付いていない課題を見つけるところから始める
- どうしてOSPOを作ったのか伝えるといい
- 初めてOSPOを作ろうと考えている方向けに回答を用意したい
 - (例)社内でOSPOを作ろうとしたときに、他社事例があると社内啓蒙がしやすい
- OSPOの形は、それぞれの会社で異なってよい
 - OSPOを作りたい理由をはっきりさせるところから始めると良い
- 例えば
 - ソフトウェアハウス型企業A:
 - 主体は各組織。それをサポートするのがOSPO
 - 各部署にOSPOのメンバーがいて、仮想的に集まった組織としてOSPOがある
- (ソフトウェアハウス型企業、非ソフトウェアハウス型企業、の場合で)
- 参考資料
 - <https://www.linuxfoundation.jp/publications/2022/11/a-deep-dive-into-open-source-program-offices/>
 - https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf
 -

Q: OSPOの組織構成やメンバ構成は？

A:

- 初めてOSPOを作ろうと考えている方向けに回答を用意したい
 - (例)社内でOSPOを作ろうとしたときに、他社事例があると社内啓蒙がしやすい
- OSPOの形は、それぞれの会社で異なってよい
 - OSPOを作りたい理由をはっきりさせるところから始めると良い
- 例えば
 - ソフトウェアハウス型企業 A:
 - 主体は各組織。それをサポートするのが OSPO
 - 各部署にOSPOのメンバーがいて、仮想的に集まった組織として OSPOがある
- (ソフトウェアハウス型企業、非ソフトウェアハウス型企業、の場合で)
- 参考資料
 - <https://www.linuxfoundation.jp/publications/2022/11/a-deep-dive-into-open-source-program-offices/>
 - https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf
 -

Q1の参考リンク

- A Deep Dive into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges
 - <https://www.linuxfoundation.org/research/a-deep-dive-into-open-source-program-offices>
- 深層考察:『オープンソース プログラム オフィス』組織構成、役割、責務、および課題
 - <https://www.linuxfoundation.jp/blog/2022/11/japanese-version-of-a-deep-dive-into-open-source-program-offices-launch/>
- Creating an Open Source Program
 - <https://www.linuxfoundation.org/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program?hsLang=en>
- オープンソースプログラムの作成
 - <https://www.linuxfoundation.jp/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program/>
- OSPO 101 Training Modules
 - <https://github.com/todogroup/ospo-career-path/tree/main/OSPO-101>
- Open Source Program Office (OSPO)の進化
 - https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/08/LFResearch_OSPO_Report-jp.pdf

Question 候補(青字はMTG中に追記したもの)

1. OSSの管理はなぜ必要なのですか？(なぜ今更、既にOSSは多く使われているのに)[スライドリンク](#)
2. OSPOって何ですか？
3. (TO:OSPO組織を既に持っている企業)どうしてOSPOを作ったのですか？
4. OSPOを作りたいのですが、何から手を付ければいいですか？
5. OSPOの組織構成やメンバ構成は？
 - a. (ソフトウェアハウス型企業、非ソフトウェアハウス型企業、の場合で)
6. OSPOの組織や権限はどうなっている？
 - a. (OSPO予算、OSPOレポートライン、OSPO既定の社内ルール違反時の対応、など)
7. SBOMをソフトウェア納入者に要求している？
 - a. (タイミングは？ フォーマットは？ 内容確認は？ 更新頻度は？ 更新を要求してる？)
8. SBOM管理のツールは足りてる？
 - a. (SBOMの中身をどうやって見てる？ SBOMの品質判断/品質基準は？ SBOM差分は見れる？)
9. OSSの著作権は？
 - a. (著作権法の通り？ 社内規定がある？ コミュニティ活動は業務？ 入社前開発の個人OSSの場合は？)
10. OSSでOSSを管理している？
 - a. (注意点は？ OSSを管理するOSSの無担保/無保証に対する考え方は？ 社内説明ロジックは？)
11. 社内開発部門からのOSS活用したソフトウェアの利用申請は実施してる？
 - a. (申請書内容は？ 申請違反があったら？ 申請承認後の申請違反チェックは？)
12. 【2/10提起】法務部や知財部からのOSPOへのコントリビューションは？
 - a. 法的判断の責任は？)
13. 【2/10提起】調達時のSBOM要求の責任は？
 - a. (内容、契約、SBOM未提出時、の責任は？)
14. OSPOが扱う課題はなんですか？
15. OpenChainの活動はなぜ必要なのか
16. OSSの脆弱性をどうやって見つければいいですか
17. コミュニティとの付き合い方はどうしたらいいでしょうか

2023/3/24 会合のチャット

● 15:06:12 そもそもOSPOとは、という問いがありそうな。
●
● 15:07:11 "そもそもOSPOとは、..." に対して?? で対応しました
●
● 15:07:45 TODOに組織構成が掲載されているホワイトペーパーです。
● <https://www.linuxfoundation.org/research/a-deep-dive-into-open-source-program-offices>
● 15:07:47 以前見たことある資料は、こちらがありました
● 深層考察:『オープンソースプログラムオフィス』組織構成、役割、責務、および課題 Linux Foundation
● Japan11月 29, 2022 <https://www.linuxfoundation.jp/blog/2022/11/japanese-version-of-a-deep-dive-into-open-source-program-offices-launch/>
● 15:10:42 昔見たことあるドキュメントが無くなっちゃってるかも...?
● <https://www.linuxfoundation.org/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program>
● ?hsLang=en
● 15:13:07 こちらに記載あります
●
● 15:13:09 <https://github.com/todogroup/ospo-career-path/blob/main/module3/README.md>
● 15:13:57 <https://github.com/todogroup/ospo-career-path/blob/main/OSPO-101/module3/README.md>
● 15:14:15 これですかね？
● 15:14:16 <https://github.com/todogroup/ospo-career-path>
● 15:15:09 <https://www.linuxfoundation.jp/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program/#4>
● 15:15:14 皆さんが共有してくれた情報を整理してリスト化するのも重要そうですね。
● 15:20:09 <https://www.linuxfoundation.jp/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program/>
● 15:22:13 これだ。。。
● 15:22:13 OSS推進、ですかね
● 15:23:10 Reacted to "OSS推進、ですかね with ??
●

● 15:38:26 whyが先に来るほうがわかりやすいかなと思いました。
● 15:42:19 OSPOの成熟度ステージがあるといいのかも。
● 15:46:44 <https://www.linuxfoundation.jp/resources/open-source-guides/creating-an-open-source-program/#2>
● この役割の中では一番下からスタートするところは確かに多そう。
● 15:48:13 チャットは最後に「チャットを保存」してテキスト化して議事録と一緒に保管しましょう～
● 15:48:36 Reacted to "チャットは最後に「チャットを保存」してで with ??
● 15:50:44 リーフレットの内容はどうでしょうか。
● 15:50:55 Reacted to "リーフレットの内容はどうでしょうか,with ??
● 15:52:37 "リーフレットの内容." に対して?? で対応しました
● 15:52:53 リテラシーみたいな感じですかね
● 15:54:14 以前は「どろぼうになってしまいますよ」と説明したことも。
● 15:55:53 「大統領令」というのはもう一段ブレイクダウンしてOSSのサプライチェーン管理を要求する大統領令」くらい書く方がいいかと。
● 15:56:58 「No More OSS泥棒」(映画泥棒的に)って言ったことはあるなあ
● 15:57:19 大統領令の方はライセンス管理の観点よりもセキュリティ観点なんですよ。ね。
● 15:57:27 Reacted to "大統領令の方はライセンス管理の観点より with ??
● 15:57:52 Reacted to "「No More OSS泥棒」(映画泥棒." with ??
● 15:59:26 東京五輪のロゴ盗用問題を引き合いに出したこともある
● 16:00:17 Reacted to "東京五輪のロゴ盗用問題を引き合いに出した with ??
●

OSSのメリット・OSPOの役割とOSSの理解度の関係

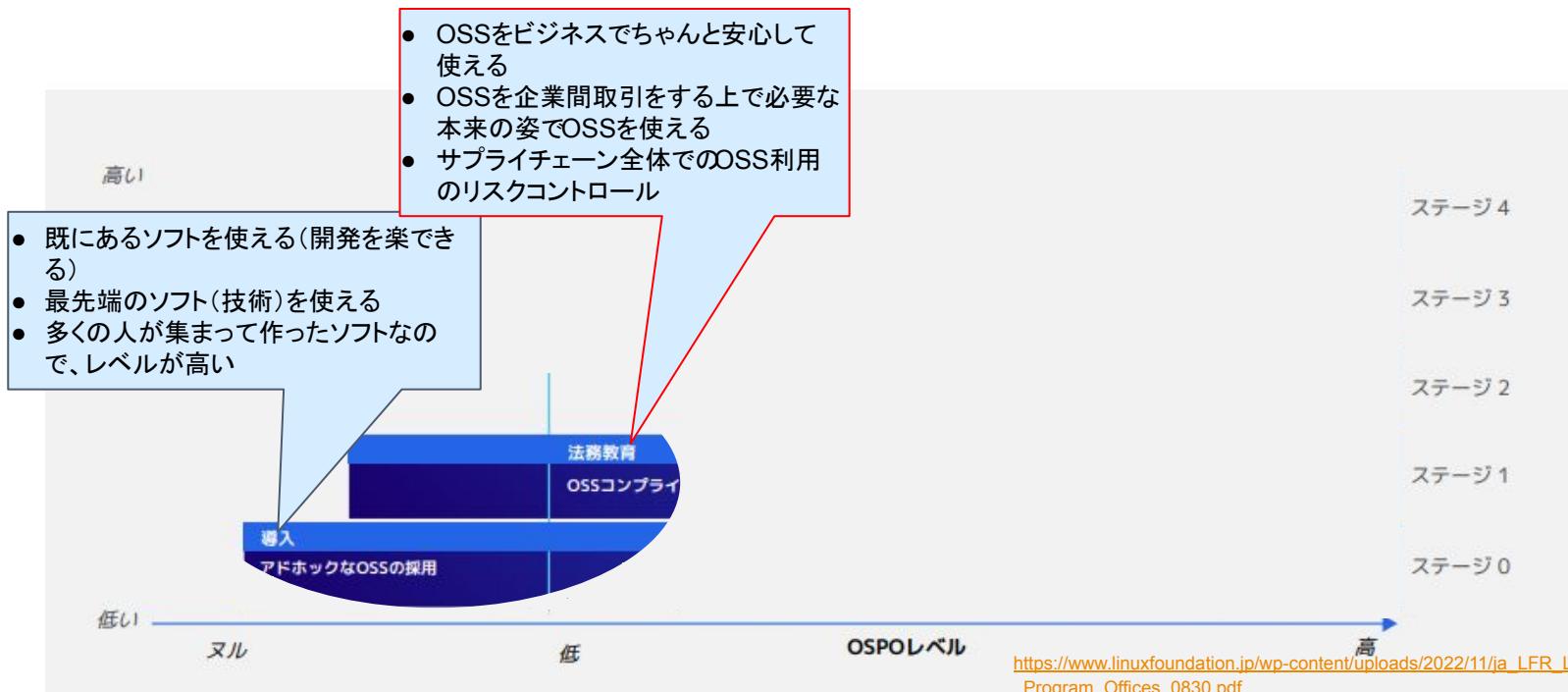
- OSSやコミュニティの理解が深まると OSSのメリットの見え方が変化する
- OSSやコミュニティの理解が深まると OSPOの役割が変化する
- OSSの理解の深まりのステップ
 0. OSS = ソースコードが開示され、自由な複製、改変、配布が許諾されているソフトウェア
 - 「無料なので得」
 1. Copyright表記やライセンス提示等のライセンス条件に従わないといけない
 - 「ライセンスをしっかり理解して確実に対応すべき」
 2. 品質は高いが保証がない
 - 「商用保証は自社で行う必要がある」
 3. 品質が高いのは多くの技術者が開発や利用(検証)に関わっているから
 - どれだけの人が関わっているかによって品質にばらつきがある
 - 「開発コミュニティについて知っておくべき」
 4. 自社修正をコミュニティに提供しないと製品をサポートできなくなる
 - 修正を自社にとどめると、自社で最初から開発するよりコストがかかる
 - OSSのバージョンアップにキャッチアップしてゆくために、自社でバックポートすることになる
 - バックポートをあきらめると、自社修正OSSに結合しているOSSのバージョンアップもできなくなる
 5. コミュニティの中で共同で修正する方がよい結果が得られる
 6. 貢献することで、コミュニティが活発化・安定化することで、製品保証がしやすくなる
 7. 製品に重要なOSSのコミュニティを自社が中心となって運営することで、製品の差異化を図れる

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

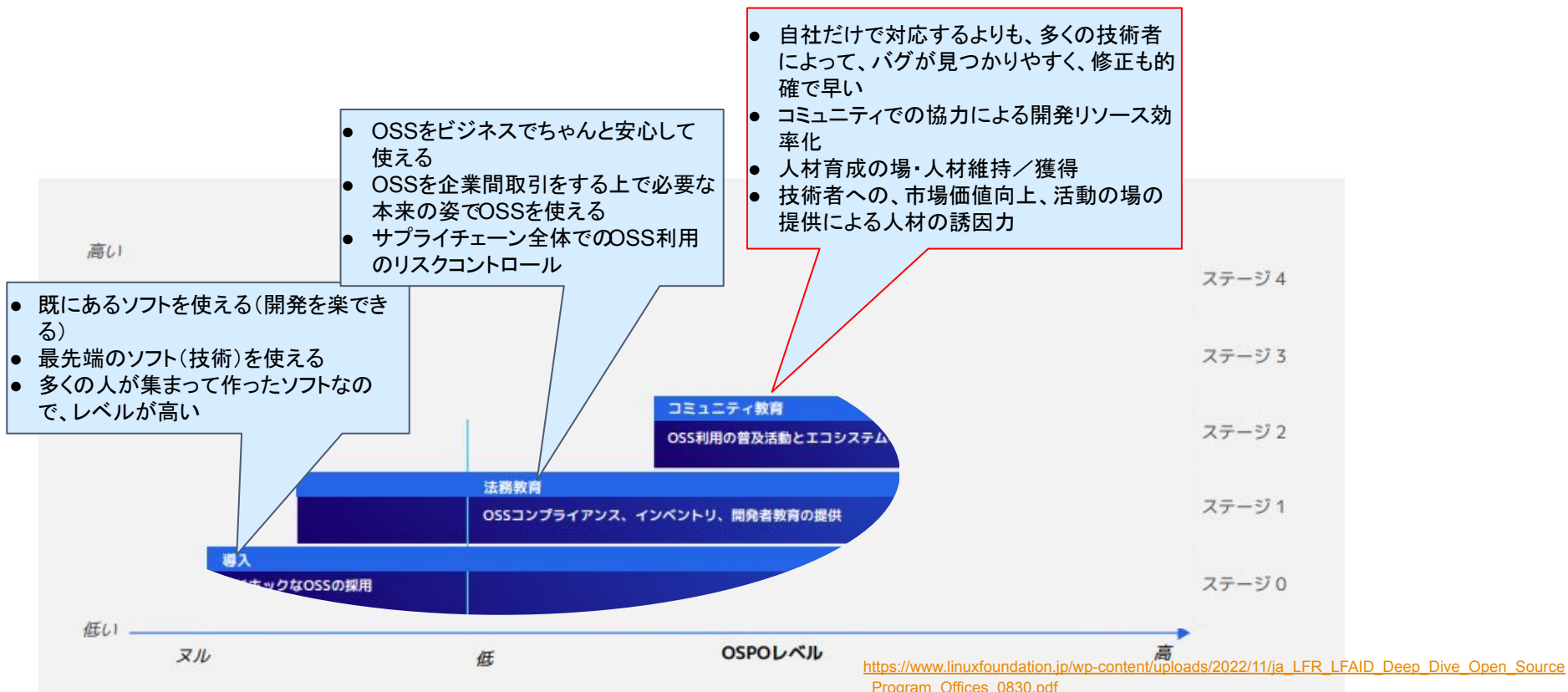
Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

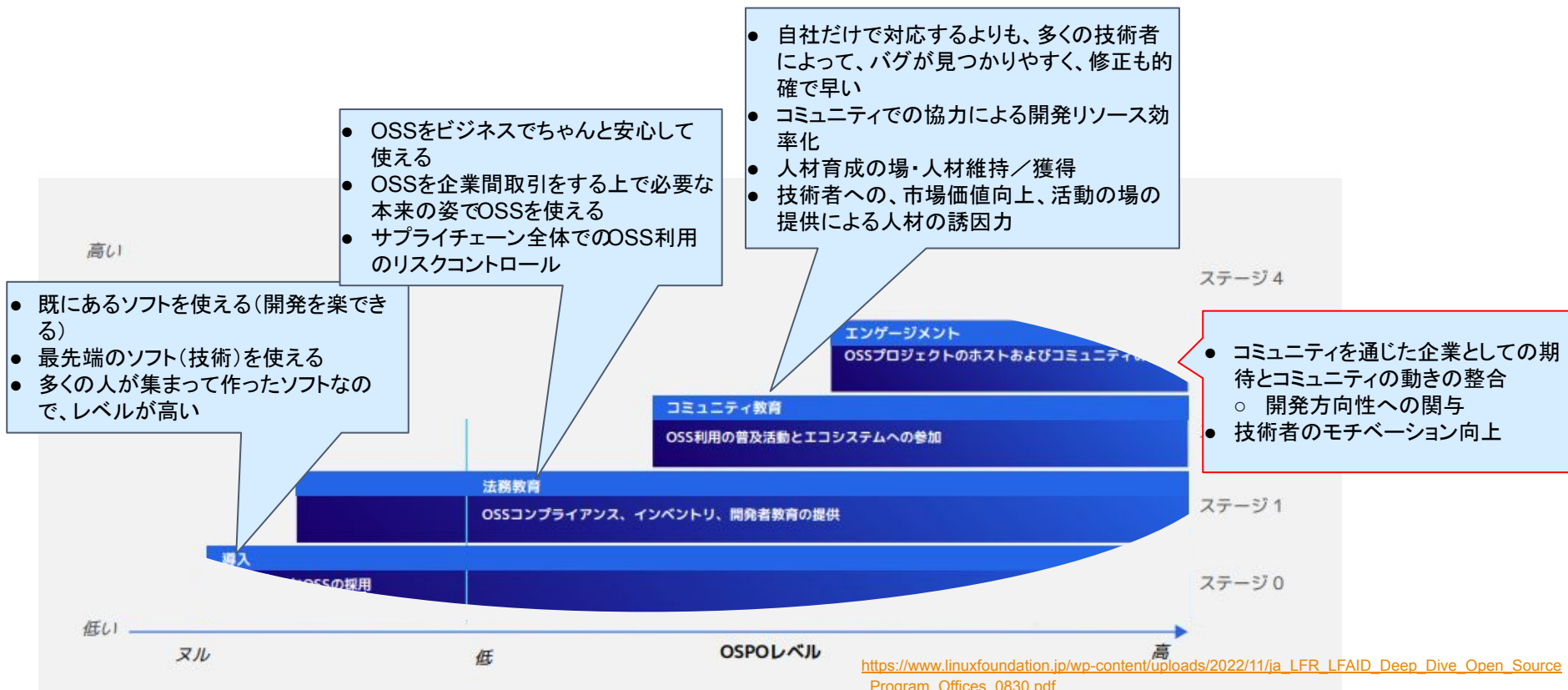
Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



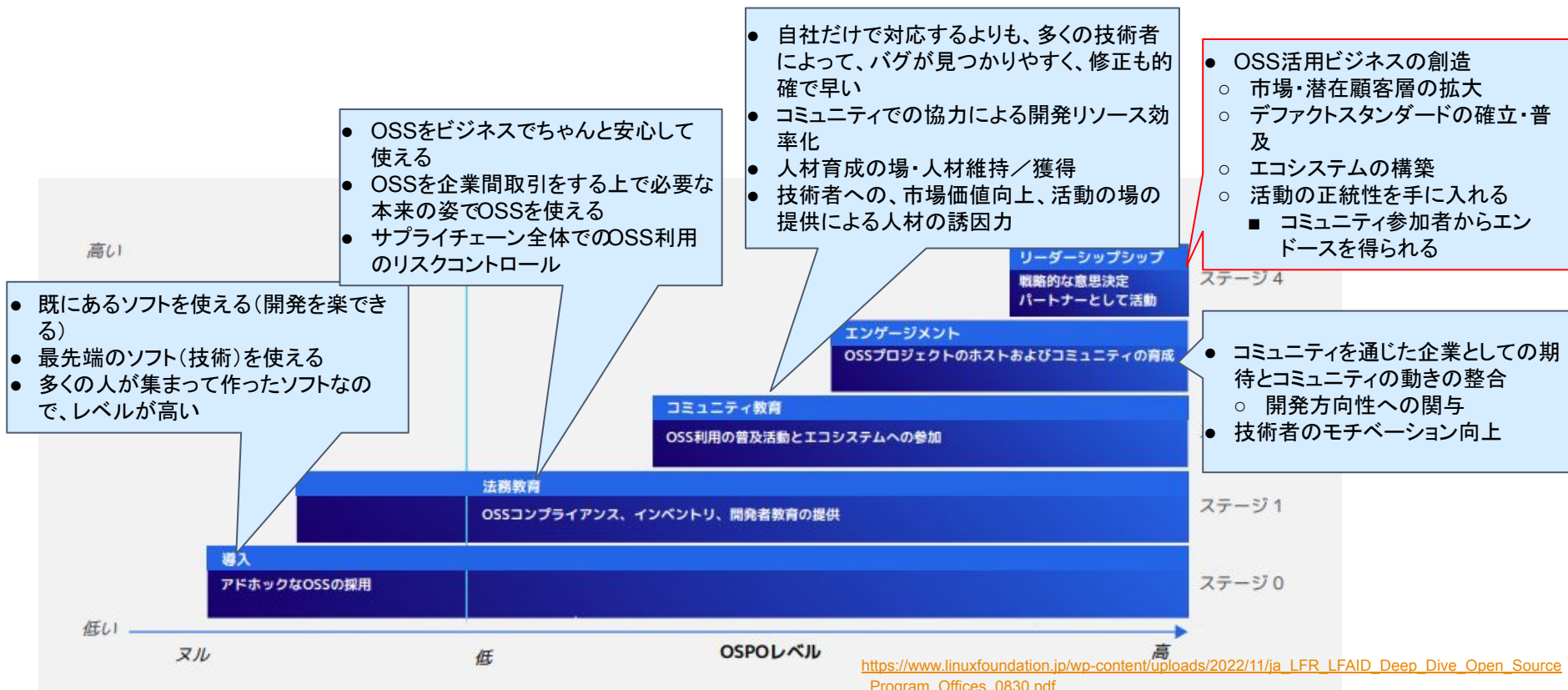
Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges" foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

Q: OSSを活用する、OSS活動のメリットは何ですか



https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges" foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

OSPOってなんですか

Qx それぞれの Stageにある会社において OSPOがやることをまとめたみた



https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

OSPOってなんですか

Qx それぞれのStageにある会社においてOSPOがやることをまとめてみた

- 会社全体でライセンス遵守を徹底するために推進する役割を担う
- OSSコミュニティを利活用するために、その文化を理解し社内です適切に行動できるようになるための準備室
- ゆくゆくは、社外のOSSコミュニティに貢献できるように、まずは社内でのOSS情報共有をする、社内のOSSコミュニティを築いて交流を活発にする

- ライセンスを啓発して浸透させる役割を持つ
- OSSは重要とか、ライセンスは守りましょうとか、を伝道する活動



低い

ヌル

低

OSPOレベル

高

ステージ 4

ステージ 3

ステージ 2

ステージ 1

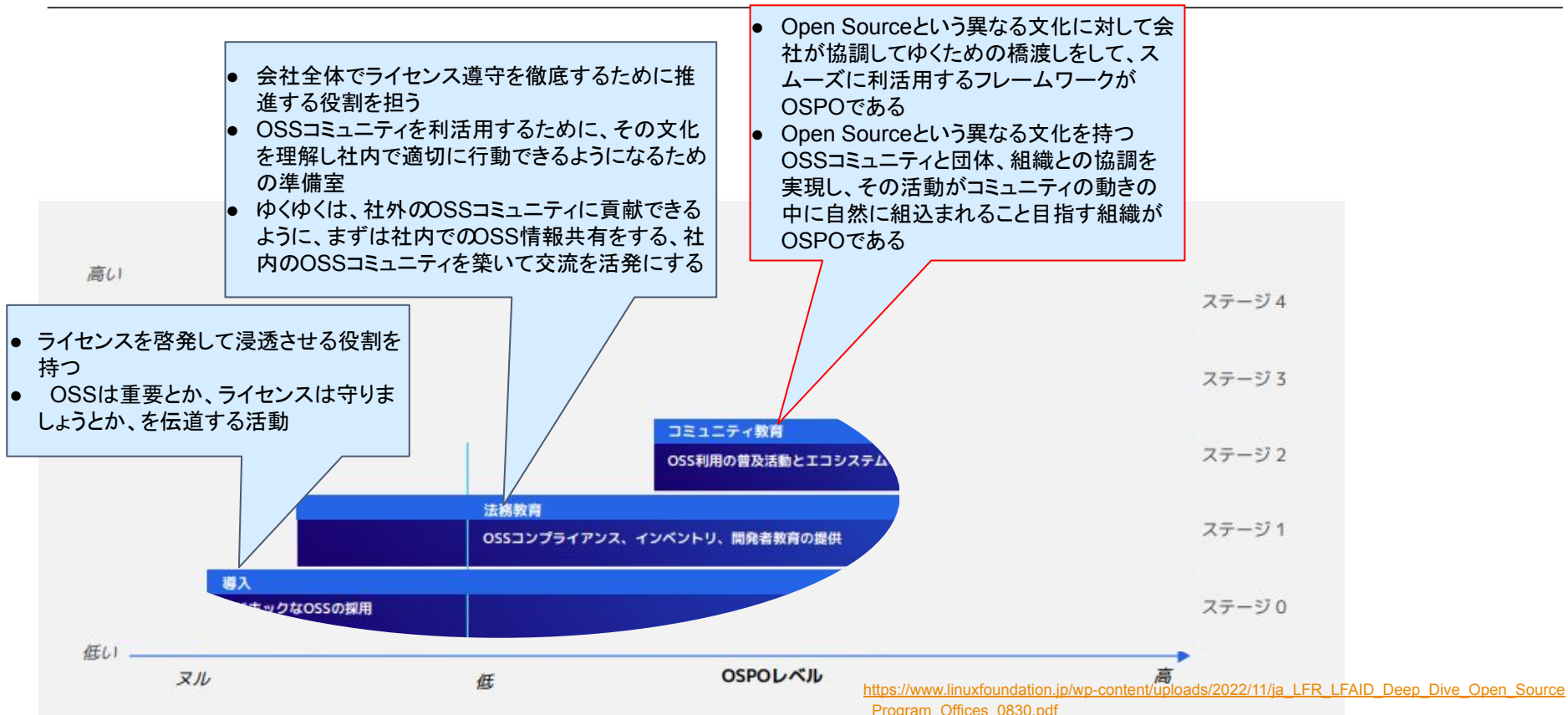
ステージ 0

https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

OSPOってなんですか

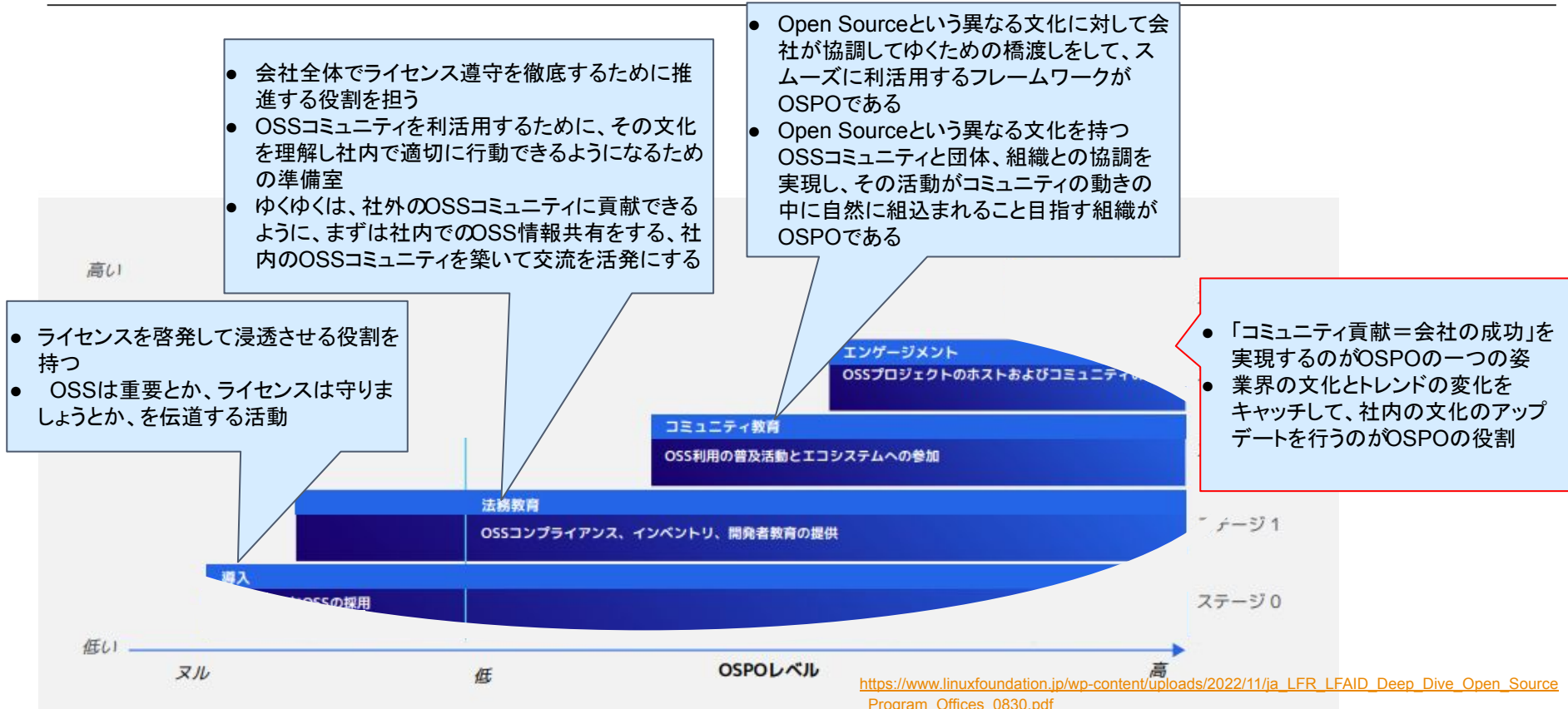
Qx それぞれのStageにある会社においてOSPOがやることをまとめてみた



Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges " foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

OSPOってなんですか

Qx それぞれのStageにある会社においてOSPOがやることをまとめてみた

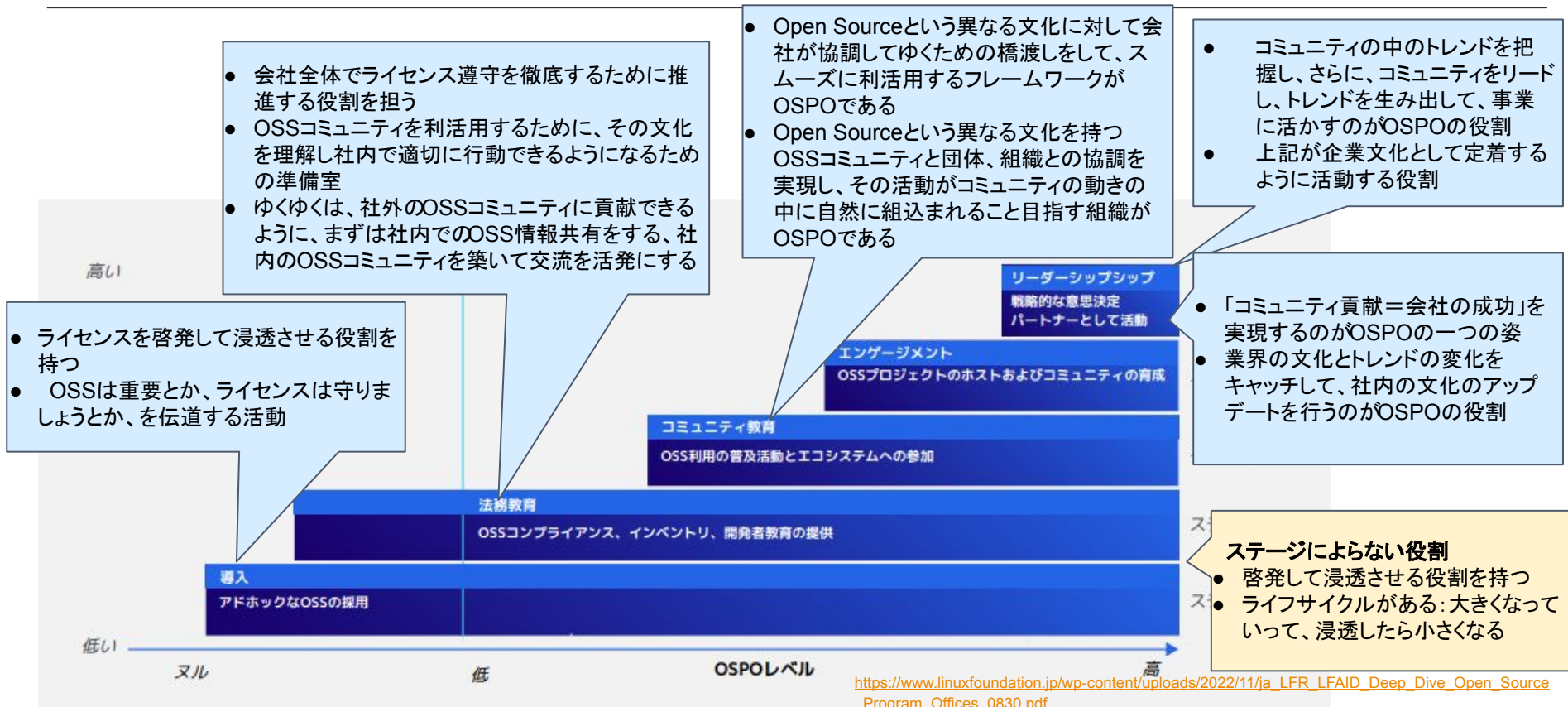


https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges" foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

OSPOってなんですか

Qx それぞれのStageにある会社においてOSPOがやることをまとめてみた



https://www.linuxfoundation.jp/wp-content/uploads/2022/11/ja_LFR_LFAID_Deep_Dive_Open_Source_Program_Offices_0830.pdf

Ibrahim Haddad, "A Deep Dive Into Open Source Program Offices: Structure, Roles, Responsibilities, and Challenges" foreword by Chris Aniszczyk, August, 2022

2024/6/28 agenda

1. 会議の行動規範説明
2. この会の趣旨
3. 自己紹介 & OSPOに関する一番の関心事
4. 今後の進め方
 - a. 一区切りを付けて成果発信する？
 - b. 参加者のニーズに合っているか？
5. 関心事の中からFAQトピックを選んで議論

関心事

- OSSを正しく理解してもらえるようにしたい
 - 正しい理解の上に社内ルールなどができていないと開発の人が困ってしまう
- 社内での旗振り
- OSSを利用して業務の効率化、もっと集中すべきところにフォーカスできるようになってもらいたい
- コントリビューション活動が正しく評価されない
 - 会社にとって必要なことという理解がない
- 現場で実行可能な手順をどうするか
 - 自己紹介を聞いていて、理解してもらうための情報L&F が展開してくれているな、と思い、リンクを貼ります
 - [企業のためのオープンソースガイド – The Linux Foundation](#)
 - それから、コントリビューションを半導体のNVIDIA が事業のためにやっている事例を含めて発表したときの資料も貼ります
 - https://static.sched.com/hosted_files/ossna2024/05/QuantitativeMethodContributionValue-KS_MK_202404.pdf
 - Intel の対外的な発信情報
 - [How Intel Supports Open Source from the Inside Out](#)
 -
- 担当エグゼクティブに誰になってもらうか
- OSSが事業にどう役立てることができるか
- OSSの活動の評価指標
- OSSを事業部が自分事として考えてもらえるようになって欲しい
- AIの今の状況がOSSの最初の状況と似ている(危ないから使ってはダメ、など)
- 日本企業は外圧がないと動かない傾向が強いがこれをなんとかできないか
- ガバナンスだけでなくリーディングをやっていくようにしたい
- サイバーセキュリティも注目されるようになった
- 社内で部署により温度差がある
- OSSを持ってくる時のプロセスに問題がある(安全なOSSを選ぶようにしてもらいたい)
- OSPOのメンバー集め、どのような人が必要なのか
- 日本と海外でOSPOの課題が違うのでは

-
- 最近のソフトウェアは開発するものから調達するものになった？
 - クラウドサービスが主流になって、OSSとして開発し、サービスで儲ける形になった。これに日本が追いついていない。
 - 日本特有？
 - FAQテーマ案：
 - コントリビューションとはなにか
 - 理解を深める
 - どう伝える
 - 価値の測り方
 - OSS貢献は標準化委員会活動で説明すると伝わりやすい

- OSS 教育を全社教育にするのはなぜですか？
 - 他社の事例を集めて知らせる
- 教育内容のレベル(基礎、ライセンス、実践、戦略)分けの共通モデルがあるか？
 - マネジメント向けの教育(意識改革):部長、課長向け、経営層向けのいい方法
- スタートの仕方:どこから手を付ければいいのか
 - LTできっかけを集めて共有する。業界で違いがあるような気がする。
- OSSコミュニティと企業の望ましい関係とその理由
- EUの国、市はOSPOを持っている
 - EU Commissionが旗を振っている:USのBig Techに対抗するため
 - [自治体毎にシステムを作るのは限界 | Hal Seki \(note.com\)](#)
 - お金儲けのためにOSS/OSPOが必要ということを周知することがいいのではないか
- コミュニティ活動が会社にメリットを生むことをうまく伝えたい
-

2024/8/23 Contributionについて

- 貢献
 - 例: issue報告、不具合報告、修正提案
 - ドキュメント作成、イベント参加、積極的にイベントを盛り上げる
 - ブログ等でのコミュニティの紹介・盛り上げ
 - 総じてコミュニティを活性化せるものは全てContributionになる
 - 寄付(スポンサーシップ)
 - プロジェクトへ、イベント、Foundationへのメンバーシップ費
 - 物やインフラの提供
- 貢献はなぜ必要・大事なのか
 - 自社が不利にならないように: ドキュメント作成、共通認識の形成
 - 自社のデバイス(競争領域)について間口を広げる(利用者を増やす)
 - Slerとして、ソフトの内製化の際にベンダーロックインを回避する
 - 自社のプレゼンスを高めて商談を獲得する
 - 開発者(従業員)満足度の向上 ➡ 帰属意識の高まり、開発者をひきつける
 - 採用側としては、コミュニティで活躍している人を見つけて採用する
 - 開発・技術面
 - 技術課題の解決の場としてコミュニティを活用する(性能改善、機能改善をして、自社製品の競争力とする)
 - セキュリティ対応への追従での開発費抑制(コントリビューションによってOSSのバージョンとの差分を小さくできているとコストを抑えることができる)
 - 技術者個人として自身の価値を上げる: 実績が公知情報として残る
- そうはいってもなかなか納得を得られないことに対して
 - OSSでデファクトスタンダードが形成される
 - 過去の成功モデルに今のOSSのモデルをマッピングできると納得が得られやすい
 - かけたお金はどう還元されるかをうまく見せることができない ➡ トップダウンでないと難しい
 - OSSを単にソフト開発活動と捉えると収支が取りにくくなる
 - やらなくても誰かがやってくれるは古いことをどう伝えるか
 - 成功している企業についてうまく伝える
 - 課題の回避策を探すのではなく、衆知を集めて根本解決が得られる

- OSSになじみのない部門をどう説得するか
 - 自社で閉じなくなったことを説明する: やることは同じ
 - 「自社に閉じなくなったとしてもできるだけ社内に残しなさい」という反応をされる
 - これは無駄な抵抗であると伝えたいがどうすれば伝わるか？
 - 恩返しという考え方
 - OSSは競争領域ではない、失うものはない。むしろ得する方が多い
 - サプライチェーン間で古いバージョンのOSSをやり取りすることによってフラグメンテーションを生んでいる
- OSSになじみのない会社をどう説得するか
 - そもそもOpenの考えがないのが課題

- OSPOの最終形は？
 - 維持メンテナンスを続ける
 - 新しい取り組みを始めるときにはOSPOがある方がよい
 - 各部門が適切にOSS活用・コミュニティ活動ができるようになれば、多くの役割は必要なくなる
 - [Open Source Summit Europe 2023: Workshop: Building and Managing an Open...](#)
 - 動画 53分くらいに、OSPO Lifecycle の話があります。
 - OSS貢献が適切に行われているかを監視する機構としてのOSPOは残るのか？
 - 会社内の様々な評価指標を総合的に見ないと適切かどうかを判断できないのでは
 - OSS活動(貢献を含む)の会社にとっての価値の捉えるのは難しい(CHAOSSの活動)
 - PMOも存続している。OSPOも同じでは？
 - 教育の機能は残り続けるのでは
 - 対象となる業態、事業によって違いがあるのでは
 - OSSが会社の全ての部門に必要な会社の場合は、OSPOは消滅＝既存組織に分散して行く
 - OSPOは無くならなくてはならないのでは？
 - OSSが当たり前になって(パッケージになって)、誰もが普通に扱えなくてはいけなくなるのでは
 - OSPOはPMOの一部となるべきか
 - [オープンソースのCEO: Red HatのJim Whitehurstインタビュー | TechCrunch Japan Archive](#)
 - “結局のところ、最終的にはすべての企業がオープンソースに向かう ”、とWhitehurstはきっぱり言い切った。
 - OSSの文化、形も変化してゆく:これについてゆくための専門組織が必要なのでは

-
- OSS貢献を義務として監視が必要では
 - これだけOSSに依存しているのだから
 - 「Free Riderはけしからん」を強調しすぎると良くない
 - 「Free Riderになるとしつぺ返しを喰らうよ」の方が受け入れられやすい
 - 技術者の育成の問題もある
 - <https://gigazine.net/news/20241110-open-source-maker-taker-problem/>
 - "ポスト・オープンとは、彼らの仕事に対価を支払う方法を提供します。我々は、Post Openがオープンソースの問題に対処し、これらの問題に対処し、オープンソースが今日失敗している目標を達成する、より健全なコミュニティを構築できると信じている。"
 - [What Comes After Open Source? Bruce Perens Has Some Ideas - The New Stack](#)
 - ESGのやり方と同じように、OSS貢献の度合いが世の中に見えるようにして、企業の評価になるようにするといひ
 - CO2削減のように、企業が集まって貢献分担を決める、というアイディアは？
 - 貢献分を企業間で売買するとか。
 - 社内では濃淡を付けて、貢献先を選ぶ
 - OSCI
 - https://static.sched.com/hosted_files/osseu2024/bf/GroupWideActivitiesAcrossDiverseEntities-KS_MK_202409.pdf